

第13回ファミリードーム杯
少年軟式野球大会実施要綱

1. 主 旨 子供達の健全育成を主目的とする
スポーツマンシップにのっとり健全で安全な野球を通じて、地域社会への親善、交流に貢献し、野球技術の向上、競技者人口の拡大にも全面的に協力していく
2. 主催/主管 ファミリードーム杯大会会長 長谷川 幸司
ファミリードーム杯大会実行委員会
代表 山川 彰夫
副代表 佐藤 武雄
村山 良一
高橋 光夫
清野 敏寛
森 直人
実行委員 佐藤 淳二
奥山 周次
佐藤 秀司
田中 竜二
東海林 道哉
川崎 信二
事務局 梅津 裕
順序不同
3. 後 援 山形市・山形市教育委員会・山形商工会議所・山形商工会議所青年部
株式会社マルキ ファミリードーム
4. 協 賛 ジャイアンツ山形ファンクラブ、ナガセケンコー株式会社
株式会社カスカワスポーツ、大塚製薬株式会社、株式会社伊藤園
仙台コカ・コーラボトリング株式会社、株式会社大黒屋
キリンビバレッジ株式会社、サントリービバレッジサービス株式会社
ダイドードリンコ株式会社
5. 参加資格 スポーツ少年団登録をし、スポーツ傷害保険に加入済みであること
6. 期 日 平成26年7月20日(日)～
7. 会 場 ・決勝トーナメント組み合わせ再抽選会
10月12日(日) 山形ファミリーボウル会議室
※決勝トーナメントの日程については、組み合わせ再抽選会の際に決定致します。
8. 競技方法 平成26年全日本軟式野球規則に準ずる。但し大会特別規則を適用とする
9. 組合せ 運営説明会の席上において抽選とする
10. 開会式 運営説明会並びに抽選会終了後直ちに行う
11. 閉会式 競技終了後直ちに行う
12. 参加料 1チーム5,000円
13. その他 大会主旨に基づき後援企業の球場での広報活動は行わないものとする

大会規定

1. ベンチに入れる人員

チーム責任者 1名 監督 1名 コーチ 2名以内 マネージャー 1名
スコアラー 1名 選手小学生 20名以内

2. 服装

チーム責任者は野球帽子を着用のこと。
背番号は監督 30番 コーチ 28番、29番

3. 用具

- ・使用球は公認球C号とし、各チーム 3個持ち寄りとする。
ベスト 8からの試合においては大会本部で準備します。
- ・ユニホーム、スパイクは同色同意匠とし、ヘルメットは打者、次打者、走者
ベースコーチとも両耳にイヤークラップの付いたものを着用すること。
- ・捕手はマスク、レガース、プロテクター、ファウルカップ及び捕手用ヘルメットを着用のこと。
- ・各用具は全日本軟式野球連盟公認「JSBB」マーク入りのものを使用すること。

4. 試合

- ・全試合とも 7回戦又は 2時間 30分以内とし、2時間 30分を経過した場合は新しいイニングに入らない。
- ・試合はスピーディに運ぶよう努める。

タイムキーパーの設置

各会場においては対戦チームから各 1名、流通センター野球場と山形市野球場においては次の試合の審判員により試合時間の管理をお願いします

- ・開始時 球審のプレイボールの宣告から開始
- ・終了時 試合終了時
- ・中断が 1分以上続く事が予想される場合、球審はタイムキーパーに時計の中断を通告する

- ・点差によるコールドゲームは、大会特別ルールとして 3回 15点差、5回以降 7点差とする。
ただし決勝戦においてコールドゲームは適応しないものとする。
- ・正規回数(7回)又は 2時間 30分以内で勝敗のつかなかつた場合の特別延長戦は 2イニングまでとする。【無死満塁で継続打者とする】
それでも勝敗が決しない場合は最後の回の守備選手による抽選とする。

【抽選方法】

- ① 審判員及び試合終了時に出場していた両チームのメンバーが終了あいさつの状態に整列する。
- ② 抽選方法として○印、×印各 9枚記入したものを封筒に入れる。
- ③ 球審が 18枚の封筒を持ち、先攻チームより 1枚ずつ交互に選ばせる。
- ④ 二名の審判員が両チームの監督立会のもとに開封し、○印の多い方を抽選勝ちとする。

- ・各会場での試合においても両翼 70m、センター85m 以内でのネット、またはそれに準じる施策を行っての試合が望ましい。
- ・シートノックは後攻側より始めて、5 分以内とする。但し状況によっては短縮または省略することもある。
- ・競技中の降雨等による中止の判断は審判団、及び大会本部にて決定する。
降雨等による競技中止時の試合成立は 5 回の表裏を終了した時点からとする。
- ・雷が発生した場合は状況を判断し、試合を中断して全員を安全な場所に避難させ気象台の状況を掌握し、その後の処置を行う。
- ・ベンチは原則的に組み合わせ番号の若い方を 1 塁側とする。
- ・投手の変化球は禁止する。
- ・一人の投手が投げられるイニングは、1 日7イニング(3年生以下は5イニング)までとする。
但し、延長戦は含まない。

5. 注意事項

- ・各試合の監督又はキャプテンは、試合開始 30 分前にメンバー用紙 2 部 (審判部、対戦チーム)を提出のこと。その際攻守の決定も行う。
- ・各試合後のグラウンド整備は両チームにて行う。
- ・抗議できる人は監督又は当該プレーヤーとし、ルールの適用を誤った場合のみとする。
また、抗議は 1 分間を限度とするが審判員が認めた場合はこの限りではない。
- ・タイムの回数は 3 回までとし、延長戦となった場合は 2 イニングスに 1 回とする。
- ・各チームより選出する審判員は登録公認審判員とし、公認登録ワッペンを必ず左胸に着用のこと。【各地区の取り決めに順じ、この限りではない】
審判該当試合の前の試合開始時刻前までバックネット裏、審判席に集合すること。
審判帽子、白ワイシャツ、紺コート、紺ズボン着用が望ましい。
- ・各会場での試合においては対戦チームから 2 名ずつの審判員で行い、組合せの早い方のチームが球審、二塁塁審とし番号の遅い方のチームは一、三塁塁審とする。但し、状況により両チーム協議のうえ同意の下ではこの限りではない。原則として球審は経験者が望ましい。
(ベスト 8 からの対戦においては別紙プログラム参照)

6. 試合中の禁止事項

- ・リング、鉄パイプ等の競技場への持ち込み。但し、マスコットバットを次打者席に持ち込むのは差し支えないが、使用にあたってはプレー及び周囲の状況に注意すること。
- ・足を上げてのスライディング(妨害と審判員が認めた場合、守備妨害で走者をアウトにする)
- ・空ダッグ(空タッチ) (走者が進塁の時、野手が空ダッグをして妨害したと審判員が認めた時は、オブストラクション(走塁妨害)を適用する)
- ・相手チーム及び審判員に対する聞き苦しい野次は厳禁とする。またスタンドでの自チーム側の応援の野次もチームの責任とする。
- ・投手が投球体勢に入ってから応援は厳禁とする
- ・プレーヤーが塁上に腰を下ろすことを禁ずる
- ・着色メガネの使用。ただし理由があり審判員が協議の上必要性が認められれば使用を認める

7. その他

- ・各会場での試合及び移動については各自の責任とし安全には十分に留意すること
- ・各チーム2回戦までの対戦については、8月末まで消化すること
- ・原則として、試合は、1日1試合が望ましい
- ・遠方チーム同士の対戦で、中間地点での試合を希望する場合は、運営にご連絡下さい

8. 決勝トーナメント特別ルール

【組み合わせ】

- ・決勝トーナメント進出 8 チームによる組み合わせ再抽選を行う。
(再抽選については、ベスト 8 が決まり次第連絡致します。)

【試合】

[準決勝・準々決勝での特別ルールとし決勝戦は従来の大会要綱を適応する]

- ・全試合とも 7 回戦又は 1 時間 30 分以内とし、1 時間 30 分を経過した場合は新しいイニングに入らない。決勝戦は 7 回戦又は 2 時間 30 分以内
- ・正規回数(7 回) 又は 1 時間 30 分以内で勝敗のつかなかった場合の特別延長戦は 1 イニングまでとする。【無死満塁で継続打者とする】決勝戦の特別延長戦は 3 イニング
それでも勝敗が決しない場合は最後の回の守備選手による抽選とする。
- ・投手 1 人が投げられるイニングは、1 日 7 イニングまでとする。(但し、特別延長については含まない)
- ・決勝戦の場合は抽選を行わず、両チーム優勝とする。
- ・シートノックは省略する事とします。
- ・タイムキーパーは球審に最終回のコールを基本的に入れる事とする。

タイムキーパーについて

タイムキーパーの割り当ては決勝トーナメントスケジュールよりお願いします

- ・開始時 球審のプレイボールの宣告から開始
- ・終了時 試合終了時
- ・中断が 1 分以上続く事が予想される場合、球審はタイムキーパーに時計の中断を通告する
試合終了の決定はタイムキーパーが決定権を持つこととする
- ・試合時間は、球審のプレイコールから当該イニングの第 3 アウト完了時点までとする
- ・球審が最終回宣告をしないイニングで先攻、及び後攻チームの攻撃が長引き 1 時間 30 分を過ぎてしまった場合でも、その回の成立の後、試合の終了を宣言する

- ・試合はスピーディに運ぶよう努める。
- ・点差によるコールドゲームは 5 回以降 7 点差とする。
ただし決勝戦においてコールドゲームは適応しないものとする。
- ・競技中の降雨等による中止の判断は審判団、及び大会本部にて決定する。
降雨等による競技中止時の試合成立は 5 回の表裏を終了した時点からとする。

【注意事項】

- ・集合時間は前の試合の 3 回終了時、または 40 分前とする。(第一試合を含む)
- ・各試合の監督とキャプテンは 3 回終了時、または試合開始 40 分前にメンバー用紙 3 部(本部、審判部、対戦チーム)を提出のこと。その際攻守の決定も行う。
- ・タイムの回数は 3 回までとし、延長戦となった場合は 2 イニングスに 1 回とする。
- ・試合開始から 1 時間を経過した後、次の試合のバッテリーは同ベンチ側監督の了承の上、ブルペンで投球練習を行うことができる。
- ・外野フェンスの外側でアップを行うことはできるが、ホームベースからセカンドベースの延長上は外野フェンスの外であっても使用しない。アップのため球場に入れるのは監督とコーチ、登録選手とする。(両サイドの外野フェンス入口を開放しておきます)